
部屋とクーラーとあたし

楠瑞稀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

部屋とクーラーとあたし

【Nコード】

N2028G

【作者名】

楠瑞稀

【あらすじ】

クーラーを買い換える前に、ちよつと試してみようと思っただけのはずだった。それがいったいどういうわけで、こんな面倒くさいことになっちゃったの！？お騒がせ現代ファンタジックこめでい！

困ったことに、購入してから今年で3年目になろうというクーラーの調子があんまり良くない。

買った当初に相当ケチってしまったため今ではかなりの旧式の型だし、あつたら便利な機能も軒並み付いていない。だからいい加減観念して、そろそろ買い替え時かなあと思ったりもする。

だったら最後にちよつとだけ、試してみてもいいかなと考えたのだ。

これまで一度も使ったことがなかった——『呼び出しボタン』とやらを。

正直に言うと、あたしは機械にはあんまり詳しい方じゃない。

取扱説明書も最初の二ページ（すなわち目次）でギブアップする、とりあえずスイッチをいれて動けばそれでもいいというタイプ。何となくいじっているうちにだいたいの使い方も分かってくるし、あえてややこしい機能を使いこなす必要性だって感じない。

だからあたしは部屋にあるクーラーのリモコンに、電源のスイッチや温度調節のボタンと並んで付いていたこの『呼び出しボタン』が何なのかも購入から3年経った今もさっぱり知らないままだった。ぶつちやけ故障時に修理センターと連絡がとれるとか、そういう機能だと考えていたのでやたらと押さないほうがいいとためらっていたと言うこともある。

だけどこれで最後になるかもしれないだし、よっぽど高い料金を請求されない限りは修理センターに来てもらって直るものなのかどうか判断してもらうのも悪くない。

だからあたしはそのつもりで、思い切ってそのボタンを押してみることにした。

だけどその結果起きたことは、——あたしの予想を大幅に裏切るものだった。

ボタンを押した次の瞬間、しゅるしゅるとクーラーの送風口から白い煙が噴出する。

それは見る見るうちに固まって色が付いてついには人の形になり、あたしに向かってこう聞いてくる。

「お呼びですか、ご主人様？」

「呼んでね——っ!!」

いや、呼んだ。確かに呼んだ。反射的に全否定してしまったけれど、確かにあたしはしっかりと呼び出しボタンを押したよ。

しかし、まさかこんなのが呼び出されてくるとは夢にも思わないじゃないか。

「ちよ、ちよと待って！ あえて聞く。改めて聞く。なかんずく聞く。……誰よ、あんた!？」

「ええ!？ 見て分かりませんか、クーラーの精ですよ」

「分かるかあ!!」

甘えた声で答える煙を殴りつけようとしたが、するつと避けられた。あ、なんか腹が立つ。

ふよふよと宙に浮く謎の煙人間は大仰な仕種で首を傾げた。

「うーん、3年間無視され続けたと思ったら呼び出された途端のこの濃密なスキンシップ。ご主人様は太く短くが信条のようですね」

「勝手に決め付けないでよ！」

「それより早く、何か願い事を言ってくださいよ」

「願い事？」

イエースとクーラーの精とやらは親指を突き出した。くそう、なんだこのいちいち癪に触わるむかつきっぷりは。ぶん殴りてえ。

しかしそこであたしはたと気付く。そう言えば昔話とかでもランプの精が出てきて、三つの願い事をかなえたりしたよな。

何だか正直言っていまいち訳が分からないが、これは千載一遇の

チャンスだ。

この機会をみすみす逃すのはもったいないと、そう思い至ったあたしは慌てて頭をフル稼働させた。

この間のテストの点があまりにも悪くて9割がた落としたことが確実な東西アジア交流史の成績を可にしてくれとかどうだろう。いや、むしろ良に、いつそ優に！

「……って、さすがにそれはしょぼいか」

願いを叶えてくれるといわれて、学校の授業の評価をひとつ良くしてくれというのはさすがに人として情けないだろう。いくらなんでも欲がなさ過ぎる。

むしろ人類共通の夢といえば、金だろう金。即物的とか言われても構うものか。とりあえず、金さえあれば生活にも困らないし新しいクーラーだって買えるじゃないか。

よし、と意気込んだあたしはクーラーの精に「億万長者にしてくれ」と言おうとした。しかしそれに先駆けて、あたしはたずね掛けられる。

「ご主人様の望みはクーラーの設定温度を下げることですか？ それとも冷風を送風に変えますか？」

「しょぼっ！！？」

ちよつと待て、何だそれは。そのあたしの最初の願いに輪をかけてしょぼい願いは。

「まさか……あんた、それぐらいのことしか叶えられないの！？」

「当然じゃないですか。だって自分、クーラーの精ですよ」

エッヘンとか胸を張るな！

「だってランプの精とかは何でも願いを叶えてくれるじゃん！」

あゝ、あれですかあ。と途端にクーラーの精は困った顔をした。

「あの話は結構同業者の間でも迷惑してるんですよね」

やれやれと肩をすくめる。

「お話の中じゃごっちゃにされているけど、あの時願いを叶えたのは魔神であってランプの精じゃないんですよ。本当のランプの精は

炎を大きくしたら小さくしたり、ふたを開け閉めするぐらいしかできないんですね」

「何だその無能っぷりは！？　じゃ、じゃあ試しに聞くけど、もしも今ここにテレビの精とかが現れて願いを叶えてくれるといったも――、」

「きつと音量の上げ下げとか、チャンネルを変えたりはできると思いますよ？」

「しょぼすぎだろうがっ！」

と言うかすさまじくしょぼい！　何だこのお得感ゼロの精霊は。

「だって誰しも、持って生まれた分を超えることなんてできないんですよ」

クーラーの精はどこか陰りのある笑みを浮かべ、ふっと遠くを見る。

つつかそれで恰好つけてるつもりか。あたしはがつくりと肩を落とした。

「分かった……。理解したわ。ようするに、あなたはクーラーに関する願い事しか叶えることができないのね」

「はい、その通りです」

「逆に言えば、クーラーに関する願い事なら叶えることができる」と

「いやあ、ご主人様は察しがいいですねえ」

つつか、察しのいい悪いじゃなくてそれくらいもできないようならマジで殴るし。

「じゃあさ、いまクーラーの……。あなたの調子が悪いのを何とかしてもらって言うのはできる？」

おずおずとあたしがたずねた言葉に、クーラーの精はにつこりと微笑む。

「ああ、そんなのお安い御用ですよ」

そう答えたクーラーの精が目を閉じると、すうっと全身をどこか神秘的な燐光が包み込んでいく。

驚いたあたしが言葉も出せないでいるうちに、ふっとそれは唐突

に収まり、クーラーの精は目を開いた。

「はい。お待たせいたしました」

「うわあ、ファンタジーだっ――！」

あたしは感動のあまりぱちぱちと手を叩く。すごい、これはすごいぞ！ あたしは自分の頬が紅潮しているのが分かった。

「今でクーラーが直ったのね！」

成し遂げられたことはなんかちよつと、むしろかなりしょぼいけれど。でもこんな不思議なことが目の前で実際に起こるなんて。

しかしクーラーの精はきょとん目を瞬かせる。

「えっ、違いますよ」

「へっ？」

あたしもつられて目をぱちくりさせる。嫌な予感にひくりと頬がひきつる。

「今で……クーラーが直ったんじゃないの？」

「ええ、直ってません」

じゃあ、あのやたらめったらもったいぶった、あのポーズは――？

その問いにクーラーの精は、一片の曇りもない屈託のない笑顔でこう答えてくれた。

「今、修理センターに連絡しました。あと二十分ほどで係員の人に来てくれると思いますよ」

「――ふつつざけんなああつつつ――！」

幻想を粉々に打ち砕かれたあたしは、履いていたスリッパを思いつきりクーラーに投げつける。

クーラーの精のあげる情けない悲鳴に、なんだかちよつとすかつとした。

結局故障は簡単な修理で直ってしまつて、あたしの部屋には未だ3年前に購入したクーラーが陣取っている。

その後ちよくちよく出てくるようになったクーラーの精は相変わ

らずうざいけれど、この呼び出しボタン、どうやらあたしが付いて欲しいと思っていた『お休みタイマー』の代わりに使えることが発覚したので、とりあえずしばらくはまだ買い換えなくていいやと思う。

ただし次に新しい電化製品を買ったときには、謎のボタンは説明書をよく読んでから押すことにしようと、あたしは固く心に誓っておいた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2028g/>

部屋とクーラーとあたし

2011年8月16日03時25分発行